

デーヴォ ガイド



2025.4.21-27

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

14:1 すると、全会衆は大声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。

14:2 イスラエルの子らはみな、モーセとアロンに不平を言った。全会衆は彼らに言った。「われわれはエジプトの地で死んでいたらよかった。あるいは、この荒野で死んでいたらよかったのだ。」

14:3 なぜ【主】は、われわれをこの地に導いて来て、剣に倒れるようにされるのか。妻や子どもは、かすめ奪われてしまう。エジプトに帰るほうが、われわれにとって良くはないか。」

14:4 そして互いに言った。「さあ、われわれは、かしらを一人立ててエジプトに帰ろう。」

14:5 そこで、モーセとアロンは、イスラエルの会衆の集会全体の前でひれ伏した。

14:6 すると、その地を偵察して来た者のうち、ヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブが、自分たちの衣を引き裂き、

14:7 イスラエルの全会衆に向かって次のように言った。「私たちが巡り歩いて偵察した地は、すばらしく、良い地だった。

14:8 もし【主】が私たちを喜んでおられるなら、私たちをあの地に導き入れ、それを私たちに下さる。あの地は乳と蜜が流れる地だ。

14:9 ただ、【主】に背いてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちの餌食となる。彼らの守りは、すでに彼らから取り去られている。【主】が私たちとともにおられるのだ。彼らを恐れてはならない。」

14:10 しかし全会衆は、二人を石で打ち殺そ

うと言い出した。すると、【主】の栄光が会見の天幕からすべてのイスラエルの子らに現れた。

会衆は実際に自分たちが見たわけでもないのに、不信仰に陥った偵察たちのことばを信じてしまいました。「泣き明かした。」とありますから、祈るよりもむしろ、不信仰からくる感情に支配されてしまったのです。

そうなると理性的な判断さえできなくなってしまいます。信仰に生きてきた者が、主に従わなくなると、このようなところに陥ることがありますから注意が必要です。

その結果、エジプトに戻る事が最良であるという妄想にとりつかれてしまいました。本当はエジプトこそが自分たちを死の淵においやった最悪の場であるのに。新約時代の今も、ある人は不信仰から恐れをいだき、滅びに向かっていた頃に戻ろうとしますから、注意が必要です。

モーセはなす術がありませんでしたが、彼のこのへりくだりが、ヨシュアとカレブの確信に満ちた発言を生んだとも思われます。彼らが殺されそうになった点だけをみれば、この発言は逆効果であったようにも思えますが、しかし彼らの信仰を表し、そして主には認めていただけました。

主の前に正しいと確信することは、勇気を持って貫きましょう。たとえみ心を理解できない人々ばかりであっても、最終的には主が栄光を表わしてくださると信じましょう。人生も教会も主ののだからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





14:11 【主】はモーセに言われた。「この民はいつまでわたしを侮めるのか。わたしがこの民の間で行ったすべてのしるしにもかかわらず、いつまでわたしを信じようとしないのか。」

14:12 わたしは彼らを疫病で打ち、ゆずりの地を奪する。しかし、わたしはあなたを彼らよりも強く大いなる国民にする。」

14:13 モーセは【主】に言った。「エジプトは、あなたが御力によって、自分たちのうちからこの民を導き出されたことを聞いて、

14:14 この地の住民に告げるでしょう。事実、住民たちは聞いています。あなた、【主】がこの民のうちにおられ、あなた、【主】が目の当たりにご自身を現されること、またあなたの雲が彼らの上に立ち、あなたが昼は雲の柱、夜は火の柱の内にあって、彼らの前を歩んでおられることを。

14:15 もし、あなたがこの民を一人残らず殺すなら、あなたのうわさを聞いた異邦の民は、このように言うに違いありません。

14:16 『【主】はこの民を、彼らに誓った地に導き入れることができなかつたので、荒野で殺したのだ』と。

14:17 どうか今、あなたが語られたように、わが主の大きな力を現してください。あなたは言われました。

14:18 『【主】は怒るのに遅く、恵み豊かであり、咎と背きを赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰し、父の咎を子に報い、三代、四代に及ぼす』と。

14:19 この民をエジプトから今に至るまで耐え忍んでくださったように、どうかこの民の

咎をあなたの大きな恵みによって赦してください。」

14:20 【主】は言われた。「あなたのことばどおりに、わたしは赦す。」

14:21 しかし、わたしが生きていて、【主】の栄光が全地に満ちている以上、

14:22 わたしの栄光と、わたしがエジプトとこの荒野で行ったしるしを見ながら、十度もこのようにわたしを試み、わたしの声に聞き従わなかつた者たちは、だれ一人、

14:23 わたしが彼らの父祖たちに誓った地を見ることはない。わたしを侮つた者たちは、だれ一人、それを見ることはない。

14:24 ただし、わたしのしもべカレブは、ほかの者とは違った霊を持ち、わたしに従い通したので、わたしは、彼が行って来た地に彼を導き入れる。彼の子孫はその地を所有するようになる。

14:25 平地にはアマレク人とカナン人が住んでいるので、あなたがたは、明日、向きを変えてここを旅立ち、葦の海の道を通って荒野へ行け。

主は何も妨げられることなく、ご自身の計画を成し遂げられる方です。誰の意見にも左右されることはありません。全能の神だからです。ただしその全能とは、人間が勝手に定義した全能ではありません。

主は人と関わりを持ち、人の心に訴え、警告と励ましを与え、さらに祝福と勝利へと方向転換するように導いてくださいます。そして人の思いが主に向くなら、主はそれに答えてくださるのです。主は人の信仰に応答してくださる、全能の神なのです。

このように主はモーセの心を導いて、民のとりなしをするようにさせ、その上でさらなる御計画を示されました。モーセの信仰に応答なさつたの

です。主はイスラエルを「赦そう」と言ってくださいました。

モーセのとりなしはすばらしいものです。自分に逆らって、殺そうとまで言い出した民です。また主はモーセに関しては「あなたを彼らよりも大いなる強い国民に」と、将来が約束されているのです。しかし彼はあくまでも主の栄光を第一として、主にくいさがりませんでした。

主が応答してくださる神であることを忘れないで、モーセのような真実なとりなしとなりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23日 水曜

民数

14:26 【主】はモーセとアロンに告げられた。

14:27 「いつまで、この悪い会衆は、わたしに不平を言い続けるのか。わたしは、イスラエルの子らがわたしにつぶやく不平を聞いた。

14:28 彼らに言え。わたしは生きている——【主】のこことば——わたしは必ず、おまえたちがわたしの耳に語ったとおりに、おまえたちに行く。

14:29 この荒野におまえたちは、屍をさらす。わたしに不平を言った者で、二十歳以上の、登録され数えられた者たち全員である。

14:30 エフネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアのほかに、おまえたちを住まわせるとわたしが誓った地に、だれ一人入ることはできない。

14:31 おまえたちが『かすめ奪われてしまふ』と言った、おまえたちの子どもについては、わたしは彼らを導き入れる。彼らはおまえたちが拒んだ地を知るようになる。

14:32 しかし、おまえたちはこの荒野に屍をさらす。

14:33 おまえたちの子どもは、この荒野で四十年の間羊を飼う者となり、おまえたちがみな、屍となるまで、おまえたちの背信の責めを負わなければならない。

14:34 おまえたちが、あの地を偵察した日数は四十日であった。その一日を一年と数えて、四十年の間おまえたちは自分の咎を負わなければならない。こうして、わたしへの反抗が何であるかを思い知ることになる。

14:35 【主】であるこのわたしが言う。一つになってわたしに逆らったこの悪い会衆のす



べてに対して、わたしは必ずこうする。この荒野で彼らは死に絶える。

14:36 また、モーセがあその地の偵察のために遣わした者で、帰って来て、その地について悪く言いふらし、全会衆にモーセに対する不平を言わせた者たちもだ。」

14:37 こうして、その地を悪く言いふらした者たちは、【主】の前に疫病で死んだ。

14:38 しかし、あの地を偵察しに行った者のうち、ヌンの子ヨシュアと、エフネの子カレブは生き残った。

「わたしへの反抗が何であるかを思い知ることになる。」と主は宣言して、実際にその通り40年間もイスラエルは荒野をさまよいました。また「その地を悪く言いふらした者たち」は疫病で死にました。何か神様があまりに厳しいように感じます。しかしこれらは会衆が自ら招いたことだったのです。

一つにはカナンに入らないのはイスラエルの会衆が決めたことでした。ならば荒野をさまよえないのは当然です。また疫病は誰であってもかかる可能性があるもので、もしも守られるとしたら、それは主の恵です。その主から離れてしまったのはやはり彼ら自身です。

これは主の永遠のさばきを思い起こさせます。信じない者は滅びるというのは、了見の狭い神だと言う人もありますが、そうではありません。神から離れることを選ぶのは人間ですし、また肉体の死と神からの断絶は、もともと誰であっても決まっていることなのです。主の恵がなければ回復しないのに、その恵を拒否するのは誰であろう人間自身なのです。

私たちはヨシュアとカレブのように、神の御心を受け入れ、その救いというカナンの中に入った者です。ですから荒野のようなこの世にあっても、ヨシュアとカレブのように従順に神の勝利を確信して、信仰のチャレンジをしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24日 木曜

民数

14:39 モーセがこれらのことばを、すべてのイスラエルの子らに告げると、民は嘆き悲しんだ。

14:40 翌朝早く、彼らは山地の峰の方の上って行こうとして言った。「われわれはここにいるが、とにかく【主】が言われた場所へ上って行ってみよう。われわれは罪を犯してしまったのだ。」

14:41 モーセは言った。「あなたがたはいつたいなぜ、【主】の命令を破ろうとするのか。それは成功しない。

14:42 上って行ってはならない。【主】があなたがたのうちにおられないのだから。あなたがたは敵に打ち負かされてはならない。

14:43 そこには、あなたがたの前にアマレク人とカナン人がいて、あなたがたは剣で倒される。あなたがたが【主】に背いたから、【主】はあなたがたとともにはおられない。」

14:44 しかし、彼らはかまわずに山地の峰の方の上って行った。【主】の契約の箱とモーセは、宿営の中から動かなかった。

14:45 山地に住んでいたアマレク人とカナン人は、下って来て彼らを討ち、ホルマまで彼らを追い散らした。

「われわれはここにいるが、とにかく【主】が言われた場所へ上って行ってみよう。われわれは罪を犯してしまったのだ。」というのは、悪い発想ではないようにも感じるかも知れません。しかしこれもまた信仰から逸脱しています。

それは神が「荒野へ出発せよ(25)」と命じておられるのに、それに背く行為です。また勝利は神がもたらすのに、自分たちには実はできる力があるのだ



と勘違いしています。さらには「私たちは罪を犯してしまった」と悔い改めているようですが、その罪の本質は戦わなかったことではなく、主に背いたことです。なのにここでまた主に背こうとしています。

このように私たちも本当の悔い改めとは違うことをしないように、注意しなければなりません。罪とは行為がどうであったかというよりも、神への背きが根本問題なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 金曜

民数



15:1 【主】はモーセにこう告げられた。
15:2 「イスラエルの子らに告げよ。わたしがあなたがたに与えて住まわせる地にあなたがたが入り、
15:3 食物のささげ物を【主】に献げるとき、すなわち、特別な誓願を果たすためであれ、進んで献げるものとしてであれ、例祭としてであれ、牛か羊の群れから全焼のささげ物かいけにえをもって、【主】に芳ばしい香りを献げるとき、
15:4 そのささげ物をする者は、穀物のささげ物として、油四分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の一エパを、【主】に献げなければならない。
15:5 また全焼のささげ物、またはいけにえに添えて、子羊一匹のための注ぎのささげ物として、四分の一ヒンのぶどう酒を献げなければならない。
15:6 雄羊の場合には、穀物のささげ物として、油三分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の二エパを献げ、
15:7 さらに注ぎのささげ物として、ぶどう酒三分の一ヒンを献げなければならない。これは、【主】への芳ばしい香りである。
15:8 また、あなたが特別な誓願を果たすために、若い牛を全焼のささげ物、もしくはいけにえとする場合、あるいは交わりのいけにえとして【主】に献げる場合は、
15:9 その若い牛に添えて、油二分の一ヒンを混ぜた小麦粉十分の三エパの穀物のささげ物を献げ、
15:10 また注ぎのささげ物として、ぶどう酒二分の一ヒンを献げなければならない。これ

は【主】への食物のささげ物、芳ばしい香りである。
15:11 牛一頭、雄羊一匹、いかなる羊、やぎについても、このようにしなければならない。
15:12 あなたがたが献げる数に応じて、それらの数にしたがって、一頭、一匹ごとにこのようにしなければならない。
15:13 すべてこの国に生まれた者が、【主】への芳ばしい香りの、食物のささげ物を献げるには、このようにこれらのことを行わなければならない。
15:14 また、あなたがたのところに寄留している者、あるいは、あなたがたのうちに代々住んでいる者が、【主】への芳ばしい香りである、食物のささげ物を献げる場合には、あなたがたがするようにその人もしなければならない。
15:15 一つの集会として、掟はあなたがたにも、寄留している者にも同一であり、代々にわたる永遠の掟である。【主】の前には、あなたがたも寄留者も同じである。
15:16 あなたがたにも、あなたがたのところに寄留している者にも、同一のおしえ、同一のさばきが適用されなければならない。」
15:17 【主】はモーセにこう告げられた。
15:18 「イスラエルの子らに告げよ。わたしがあなたがたを導き入れようとする地にあなたがたが入り、
15:19 その地のパンを食べようになったら、あなたがたは【主】に奉納物を献げなければならない。
15:20 初物の麦粉で作った輪形パンを奉納物として献げ、打ち場からの奉納物として献

げなければならない。
15:21 初物の麦粉のうちから、あなたがたは代々にわたり、【主】に奉納物を献げなければならない。

ささげ物として穀物は謙遜、全焼は献身を表わします。そこに約束の地カナンが添えられるということは、その約束成就が表わされるもので、大きな希望です。

私たちも、約束の地である天国の希望を明かにしていただきましょう。主の恵の支配の前味を体験させていただくために、祝福の産物をささげましょう。

教会においてもその祝福は、「寄留している者も」も同国人も関係なく、「同一」のものです。ささげ物として穀物は謙遜、全焼は献身を表わします。そこに約束の地カナンが添えられるということは、その約束成就が表わされるもので、大きな希望です。

私たちも、約束の地である天国の希望を明かにしていただきましょう。主の恵の支配の前味を体験させていただくために、祝福の産物をささげましょう。

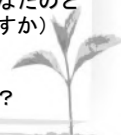
教会においてもその祝福は、「寄留している者」も同国人も関係なく、「同一」のものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 土曜

民数

15:22 あなたがたが迷い出て、【主】がモーセに告げたこれらすべての命令、
15:23 すなわち、【主】が命じた日以後、代々にわたって、【主】がモーセを通してあなたがたに命じたすべてのことを行わないとき、
15:24 もしそのことが、会衆が気づかずになされたのなら、全会衆は、【主】への芳ばしい香りのための全焼のささげ物として若い雄牛一頭、また、定めになう穀物のささげ物と注ぎのささげ物、さらに罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹を献げなければならない。
15:25 祭司がイスラエルの全会衆のために宥めを行うなら、彼らは赦される。それは過失であり、彼らが自分たちの過失のために、自分たちのささげ物、すなわち【主】への食物のささげ物と罪のきよめのささげ物、【主】の前に持って来たからである。
15:26 イスラエルの全会衆も、あなたがたの間に寄留している者も赦される。それは民全体の過ちだからである。
15:27 もし個人が気づかずに罪に陥ってしまったのなら、一歳の雌やぎ一匹を罪のきよめのささげ物として献げなければならない。
15:28 祭司は、気づかずに罪に陥ってしまった者のために、【主】の前で宥めを行う。彼のために宥めを行い、その人は赦される。
15:29 イスラエルの子らのうちのこの国に生まれた者でも、あなたがたの間に寄留している者でも、気づかずに罪を行ってしまった者には、あなたがたと同一のおしえが適用されなければならない。



15:30 この国に生まれた者でも、寄留者でも、故意に違反する者は【主】を冒す者であり、その人は自分の民の間から断ち切られる。
15:31 【主】のことばを侮り、その命令を破ったのであるから、必ず断ち切れ、その咎を負う。」

イスラエルは不信仰と不従順によって、カナンに入るのが遅れて放浪生活を送らなくてはならないのですが、そのような中でも神様の聖であることは変わりません。むしろ荒い生活のために、神様の臨在が必要であって、そのために神様の前に正しい姿勢が必要なのです。それは私たちも同じで、大変なときだから神様に従っている余裕はないというのは成り立たないのです。ここでは罪のためにすべきことが書かれています。罪とはまず第一に神に対して犯したのだということが分ります。神様に悔い改める必要があるのです。また過失であっても、その処理をしっかりする必要があります。悪気がなかったからといって、間違いをそのままにしては社会も人生も狂いが生じてくるのです。

「故意に違反する者」は「断ち切られる」と記されています。罪は何をしたのかが問われますが、それが過失であったか故意であったかという心も問われるのです。常に心を主に向けつつ、御心になう生き方をしましょう。過失があったら、謙遜にそれを償いましょう。また故意に犯している罪があったなら、十字架の主のもとに出て、悔い改めて、きよめていただきますよ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:32 イスラエルの子らが荒野にいたとき、安息日に薪を集めている男が見つかった。

15:33 薪を集めている者を見つけた人たちは、その人をモーセとアロンおよび全会衆のところに連れて来た。

15:34 しかし、その人をどうすべきか、はっきりと示されていないかったので、彼を留置しておいた。

15:35 すると、【主】はモーセに言われた。「この者は必ず殺されなければならない。全会衆は宿営の外で、彼を石で打ち殺さなければならない。」

15:36 そこで、全会衆は【主】がモーセに命じられたように、その人を宿営の外に連れ出し、石で打ち殺した。

15:37 【主】はモーセに告げられた。

15:38 「イスラエルの子らに告げて、彼らが代々にわたり、衣服の裾の四隅に房を作り、その隅の房に青いひもを付けるように言え。

15:39 その房はあなたがたのためであって、あなたがたがそれを見て、【主】のすべての命令を思い起こしてそれを行うためであり、淫らなことをする自分の心と目の欲にしたがって、さまよい歩くことのないようにするためである。

15:40 こうしてあなたがたが、わたしのすべての命令を思い起こして、これを行い、あなたがたの神に対して聖なる者となるためである。

15:41 わたしが、あなたがたの神、【主】であり、わたしがあなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出したのである。わたしはあなたがたの神、【主】で

ある。」

安息日を覚えてこれを聖なる日とすべきことは、出エジプトの頃から明白で、その罰も明言されています。それを破る者は民から絶たれるのであって、イスラエルの民もそれに同意しています。ですから主は「石で打ち殺」すことを命じられました。

かつて人間は、善悪を知る木（すなわち善悪を自分で判断すること）から食べて、神に背き、その結果呪いを受けることになりました。自分で判断するとは自己中心であり、その結果罪や争い、さらには戦争までもが引き起こされるようになったのです。

安息日を聖なるものとするとは、神の主権を認めて主に従うということです。それを破ることは、善悪を自分で判断することにつながり、呪いを受けることとなります。この呪いを受けないために主の厳罰があったのです。

新約時代の今でも、安息日に礼拝を守らずに神の主権を侵すことは、基本姿勢が神中心ではなく、人間中心であることを表しています。

十字架の救いを知っていながら、安息日に礼拝を守らない人のたましいは、命の主と繋がる事ができませんから、生きながらえているとしたら、それはただ神様の憐れみなのです。

安息日すなわち聖日の礼拝に関して、人間中心ではなく、神様中心に考えましょう。礼拝を第一にできるようライフスタイルを勝ち取りましょう。どうしてもそれが叶わない状況なら、あらゆる手立てを講じて、主が第一であることを表わしましょう。

主は「青いひも」によって「命令を思い起こ」すようにとっておられます。主の命令を忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

